

3. 1. 2 歴史文書の収集分析に基づく地震活動の検討

(1) 業務の内容

(a) 業務題目 歴史文書の収集分析に基づく地震活動の検討

(b) 担当者

所属機関	役職	氏名
公益財団法人地震予知総合研究振興会	副主席主任研究員	榎原 雅治
公益財団法人地震予知総合研究振興会	副主任研究員	水野 嶺

(c) 業務の目的

中央構造線断層帯の周縁に位置する四国・中国・九州地域で起きた地震活動を歴史史料から抽出する。

(d) 年度毎の実施業務の要約

1) 令和5年度：

中央構造線の周縁の活断層帯で起きた地震活動を歴史史料から抽出した。香川県域の史料のほか、地震史料としては未調査の愛媛県宇和島市・大分県佐伯市・熊本県熊本市の史料の調査に着手した。

2) 令和6年度：

中央構造線の周縁の活断層帯で起きた地震活動を歴史史料から抽出した。愛媛県西条市の史料のほか、地震史料としては未調査の愛媛県宇和島市・大分県佐伯市・熊本県熊本市・阿蘇市などの史料の調査を進めた。

3) 令和7年度：

中央構造線の周縁の活断層帯で起きた地震活動を歴史史料から抽出する。広島県域の史料のほか、地震史料としては未調査の愛媛県宇和島市・大分県佐伯市・熊本県熊本市などの史料の調査を継続する。

(2) 令和6年度の成果

(a) 業務の要約

中央構造線の周辺に位置する四国・九州地域の近世の日記史料を主たる対象として、機器による地震観測が開始される以前の有感地震情報を収集した。日記史料を対象としたのは、同一地点での有感地震が、同一人物によって記録されており、有感地震の長期的な変動状況を均質な基準で把握できる可能性が高いためである。また被害を出した大きな地震だけでなく、中小の地震についても把握できる可能性がある。

本年度は愛媛県小松藩・宇和島藩・大分県佐伯藩の公用日記、および熊本県熊本藩と阿蘇地域の寺院の日記を調査し、『増訂大日本地震史料』（震災予防評議会、1975-1976）、『新収日本地震史料』（東京大学地震研究所、1981-1994）に未収録の地震情報を収集した。また

近世後期の地震発生状況の調査地点ごとの時間的な推移を調査し、1853～1854 年の阿蘇の火山活動と地震の時系列的な関係、18～19 世紀における伊予小松（現在の愛媛県西条市）で感知された地震について検討した。また 1596 年 9 月 1 日の慶長伊予地震の発生時刻について検討した。

(b) 業務の成果

1) 西条市小松温芳図書館所蔵「小松藩会所日記」享保元年（1716）～寛政 12 年（1800）、文化 6 年（1808）～万延元年（1860）、同館所蔵「高鴨神社神主日次記録」文政 2 年（1819）～明治 10 年（1877）を部分調査した（表 1）。

表 1 伊予小松藩会所日記の調査状況と地震記事の有無															
小松藩会所日記															
和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦
享保1年8月～享保14年	1716～	明和9年	1772	寛政5月1月～6月	1793	未調査		文政2年1～6月	1819	天保9年7～12月	1838	嘉永5年1～6月	1852		
享保15年1月～12月	1730	安永4年	1775					文政2年7～12月	1819	天保10年1～6月	1839	嘉永5年1～6月	1852		
享保17年1月～12月	1732	安永5年8月～12月	1776	寛政6年正月～6月	1794			文政3年2, 7 (24日迄), 9, 11月	1820	天保10年7～12月	1839	嘉永5年7～12月	1852		
享保18年1月～12月	1733	安永6年1月～8月	1777	寛政6年7月～12月	1794			文政5年1, 2, 4, 10月	1822	天保11年1～5月	1840	嘉永6年1～6月	1853		
享保21年1月～12月	1736	安永6年8月～12月	1777	寛政7年1月～6月	1795			文政6年4～9月	1823	天保11年6～12月	1840	嘉永6年7～12月	1853		
寛政2年1～12月	1742	安永7年1月～7月	1778	寛政7年7月～12月	1795			文政6年10～12月	1823	天保12年1～6月	1841	安永1年1～6月	1854		
延享9年1～12月	1748	安永7年8月～12月	1778	寛政8年1月～10月	1796	文化6年1～6月	1809	文政7年2, 5, 7, 間8, 10, 12月	1824	天保12年7～12月	1841	安永1年7～12月	1854		
寛延4年1～12月	1751	安永8年1月～7月	1779	寛政8年1月～6月	1796	文化7年1～5月	1810	文政8年2, 4, 6, 8, 11月	1825	天保13年1～6月	1842	安永2年1～6月	1855		
宝暦3年1～12月	1753	安永8年8～12月	1779	寛政8年7月～12月	1796	文化7年6～12月江戸日記	1810	文政9年1～7月	1826	天保13年7～12月	1842	安永2年7～12月	1855		
宝暦4年1～12月	1754	安永9年7～12月	1780			文化7年6～10月7月欠	1810	文政10年12月	1827	天保14年1～6月	1843	安永3年1～6月	1856		
宝暦4年7～12月	1754	安永10年1月22日～6月	1781	寛政9年7月～12月	1797	文化8年1～6月	1811	文政11年1, 3, 5, 8, 11月	1828	天保14年7～12月	1843	安永3年7～9月	1856		
宝暦5年1～3月、5～12月	1755	天明2年1月～12月	1782	寛政10年1月～6月	1798	文化8年7～12月	1811	文政12年2, 6, 10月	1829	弘化1年1～6月	1844	安永4年1～6月	1857		
宝暦6年1～3月	1756	天明2年1月～6月	1782	寛政11年1月～6月	1799	文化9年1～6月	1812	天保1年2月	1830	弘化1年7～12月	1844	安永4年7～12月	1857		
宝暦7年1月～12月	1757	天明2年7月～12月	1782	寛政11年7月～12月	1799	文化9年8, 10, 11月	1812	天保3年7～12月	1832	弘化2年1～6月	1845	安永5年1～6月	1858		
宝暦8年1～12月	1758	天明4年1～12月	1784	寛政12年4月～5月	1800	文化11年1～6月	1814	天保3年6～12月	1832	弘化2年7～12月	1845	安永6年1～6月	1859		
宝暦9年1～12月	1759	天明7年1～12月	1787	寛政12年4月～5月	1800	文化11年7～12月	1814	天保4年1月	1833	弘化3年1～6月	1846	安永6年7～12月	1859		
宝暦10年1～12月	1760	寛政元年7～	1789	寛政12年1月～6月	1800	文化8年1～6月江戸日記	1811	天保4年6～12月	1833	弘化3年7～12月	1846	万延1年1～6月	1860		
宝暦11年6月7日～12月	1761	寛政2年1月～6月	1790	寛政12年7月～12月	1800	文化12年1～5月	1815	天保5年1～5月	1834	弘化4年1～6月	1847	万延1年7～12月	1860		
宝暦12年1月～12月	1762	寛政2年7月～12月	1790			文化12年7, 8, 10, 11月	1815	天保5年6～12月	1834	弘化4年7～12月	1847				
宝暦13年1月～4月25日	1763	寛政3年1月～7月	1791	未調査		文化13年5月1～14日	1816	天保6年1～6月	1835	嘉永1年1～6月	1848				
宝暦14年1～12月	1764	寛政3年1月～6月	1791			文化13年1, 2, 4, 6, 7月	1816	天保7年1～5月	1836	嘉永1年7～12月	1848				
明和2年1～12月	1765	寛政3年7月～	1791			文化14年2, 4, 6, 7, 10月	1817	天保7年6～12月	1836	嘉永2年1～6月	1849				
明和3年1月～12月	1766	寛政4年1月～	1792			文化14年12月	1817	天保8年1～6月	1837	嘉永2年7～12月	1849				
明和5年1月～12月	1768	寛政4年7月～	1792			文政1年1, 5月	1818	天保8年6～12月	1837	嘉永4年1～6月	1851				
明和8年	1771	寛政5年1月～8月	1793			文政1年3～12月5月欠	1818	天保9年1～6月	1838	嘉永4年7～12月	1851				

- 黄色の年は地震記事あり 複数日のものもあり
- 空欄の年は未調査（次年度調査予定）
- 享保1年～享保14年は抄録

2) 宇和島伊達文化保存会所蔵「宇和島伊達家文書」のうち各種藩日記の天和年間（1681～1684）、宝永 7 年（1710）～享保 12 年（1722）、文化 2 年（1805）～同 4 年（1807）、嘉永 1 年（1848）～嘉永 6 年（1853）を部分調査した。

3) 佐伯市歴史資料館所蔵の「佐伯藩政資料」のうち「郡方町方日記」延享 2 年（1745）～安永 3 年（1774）を調査した。

4) 熊本大学寄託「永青文庫史料」のうち「機密間日記」宝暦 7 年（1757）～同 14 年（1764）、天保 2 年（1831）～14 年（1843）、「阿蘇宮司家文書」のうち「宮司日記」天保 6 年（1835）～同 8 年（1837）、「西巖殿寺文書」のうち「学頭日記」元文 4 年（1739）、延享 2～3 年（1745・1746）、宝暦 3 年（1753）を調査した。また熊本博物館所蔵「城野家文書」のうち「城野静軒日記」弘化 2 年（1845）～明治 5 年（1872）を調査した。

5) 上記史料については各所蔵機関において調査し、それぞれ既刊の地震史料集に未収

6) 1596年9月1日の慶長伊予地震を記録した「薬師寺大般若經第十七卷奥書」「小松邑誌」、および同日の慶長豊後地震・津波を記録した「由原宮年代略記」「三浦家文書」「東槎録」によって二つの地震の発生時刻を再検討した。(図1、図2))

由原宮年代略記

興導寺大般若經奥書

西暦9月1日説
他所に言及なし

柴山勘兵衛記

三浦家文書

豊府紀聞

豊府聞書

西暦9月4日説
「諸国大地震」に言及

重祐伝

津山氏世譜

土岐家伝記

岡藩小史

豊陽古事談

雉城雜誌

威徳寺由来記

金城秘鑑

豊城世譜

関居口号

倭漢合運

9月4日の畿内地震記録

続本朝通鑑

稲葉家譜

1596年豊後地震に關係する史料の親子關係を图示したもの。発生日は9月1日で確實である。黄色で表示した史料に時刻表記があるが、参考になるのは由原宮年代略記と三浦家文書のみである。

41

(c) 結論ならびに今後の課題

1) 1853 年 9 月～1854 年 5 月にかけて阿蘇地域固有の地震が感知されている。1854 年 2 月～4 月には阿蘇山で噴湯、降灰があるので、これは火山性の地震動と推定される。1854 年夏には降灰による不作となっているので降灰は夏ごろまで続いたらしい。11 月にも阿蘇固有の地震が感知されている。なお、翌月には安政南海地震が発生している。

2) 中央構造線に近い伊予小松藩会所日記の 1716 年から 1860 年の伊予小松藩の会所日記の大半の調査を行った結果、地震記事のある日数は 1854 年の安政大地震以前 29 日、以後 86 日であった。1854 年以前の記事において、地震被害を記録した記事は見つからなかった。若干の未調査期間があり、次年度に調査の予定である。17 世紀の日記史料は小松には存在しないが、次年度は可能な限り周辺地域での調査を行う。

3) 1822 年 4 月 14 日と 1823 年 6 月 9 日には、小松だけで記録された地震が見つかった。被害の生じない小さな地震であるが、次年度はこの日を意識した調査を周辺地域で実施する。

4) 愛媛県の中央構造線周辺において大規模な被害をとまなう直近の地震は、現時点では 1596 年 9 月 1 日の慶長伊予地震である。地震発生時刻を再検討した結果、午後 7 時過ぎで、これは豊後地震にやや遅れると考えることができる。各地で記録された地震感知の時刻、被害の生じた地域の絞り込みについては、次年度さらに検討する。

(d) 引用文献

榎原雅治，文禄五年豊後地震に関する文献史学からの検討，日本歴史，865，18-36，2020.